

＼ 学 校 情 報 誌 ／

サンビ便り

SUNVILLAGE INTERNATIONAL HEALTH AND WELFARE COLLEGE

春号

2020
第38刊



社会福祉法人 新生会

サンビレッジ国際医療福祉専門学校

介護福祉学科 / 作業療法学科 / 言語聴覚学科

〒503-2413 岐阜県揖斐郡池田町白鳥 104 番地

TEL:0585-45-2220 FAX:0585-45-0188



留学生を迎えるにあたって

サンビレッジ国際医療福祉専門学校
校長 小林 月子

私の部屋には世界地図が貼ってあり、そのなかに赤い枠で囲まれた国が六つあります。ミャンマー、ネパール、インドネシア、スリランカ、バングラデシュ、ウズベキスタンです。これらの国からあわせて十名の留学生がこの四月に本校の介護福祉学科に入学する予定です。

介護福祉士をめざして勉強するため、遠く祖国を離れ、家族とも別れ日本で学ぶために本校の門を叩いたこの留学生たちを、心から歓迎したいと思っています。

今、日本では、急速な少子・高齢化が進行しており、二〇二五年には七五歳以上の後期高齢者は二千万人を超え、日本人のおよそ五人に一人を占めるようになります。

働く世代（生産年齢人口）は六千万人を割り込み、働き手の減少に歯止めがかかりません。とりわけ深刻なのが介護分野の人手不足です。介護職の有効求人倍率は四倍を超えています。施設はあっても肝心の介護職がいないのでサービス利用を断らざるを得ない。こうした事業所の例は枚挙にいとまがありません。すでに家族に頼る介護は限界を迎えており、もはや外国人の助けなくして日本の介護は成り立たないところまで来ています。専門職を中心にした今の介護の仕組みは日本社会の基本的なインフラになっています。介護の機能不全は産業全体の機能不全をもたらすと言って過言ではありません。

国は二〇一七年から広く外国人に介護の門戸を開きました。その一つが留学生制度

です。本校のような養成校で介護を学び、介護福祉士の資格をとれば介護職として長く現場で働くことができるようになりました。この機会は、サンビレッジの教育にとって、またとないチャンスです。「質の高い介護とは実際にはどういうものか」「老いても人間としての尊厳を持つて生きるとはどういうことか」こうしたことを留学生も日本人の学生も、一人の人間として、一緒に考え、一緒に現場で悩み、一緒に議論を積み重ねながらそれぞれの発見・理解に至ってほしいと願っています。

国や習慣や年齢が違えば言葉や考え、行動が違うのは当然です。その中で、いかに相手を理解するか、どうすれば相手の立場に立てるか、自分を理解してもらうためにどう工夫したらいいか等々、クラスの中で、あるいは実習やアルバイトの介護現場で一つ一つ辛抱強く体得していくて欲しいものです。

アジアの国々も今後遅かれ早かれ高齢化していきます。サンビレッジこれから学ぶ留学生たちの一部がそれぞれの国に帰国して介護の仕事を始めることもあるでしょう。

本校で学んだ介護の理念と方法がその地で展開し、その地の高齢者が尊厳を守られて暮らしていることをはるか望みながら二〇二〇年度の新学期を迎えたいと思います。

僕がベトナムで体験したこと

青年海外協力隊活動に参加して 飯塚 和太

静岡県出身。作業療法士。
サンビレッジ国際医療福祉専門学校卒業後、脳神経外科
病院に七年間勤務。二〇一七年四月に青年海外協力隊員
としてベトナムに赴任。二〇一九年四月に帰国。



ベトナムの市街地風景（ホーチミン市）

ることとなったのです。

僕が赴任したのは、首都ハノイから車で約四時間離れた、タインホア中央療養リハビリテーション病院です。人口約十五万人のタインホア省サムソン市におけるリハビリ基幹病院です。病床数が約三百床という規模で、私が所属した作業療法部門の患者は一日平均六〇人程度でした。

ベトナムでは、めざましい高度経済成長と急速な平均寿命の延びに伴い脳血管障害等の患者が増え、近年は、リハビリの需要が増してきました。



派遣先の病院にて

皆さんこんにちは。僕は飯塚和太と申します。作業療法学科の九期生（二〇一〇年卒）です。東京の訪問看護ステーションで作業療法士として働いています。僕はこの四月までの二年間ベトナムにいました。

ベトナムの病院に所属し、そこを拠点に作業療法の仕事を普及させるための仕事に携わっていました。在学中からいつかは外国で仕事してみたいと思っていた僕は卒業後七年でその夢を叶えることになりました。青年海外協力隊という国の制度を利用し、それまで働いていた静岡の病院を辞め、国内研修を経てベトナムの病院に派遣され

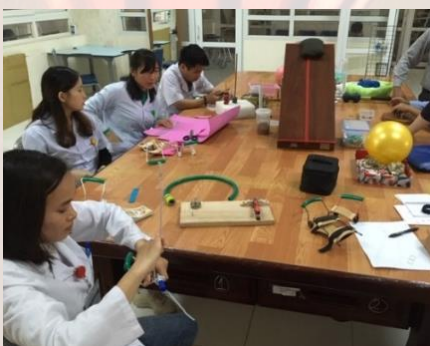
また、若くても交通事故等で障害を持ちリハビリを要する人がたくさんいま

す。歩行できない、起きられない、腕や指を自由に動かせない、しゃべれない等々。しかし、リハビリをやるうにも、僕が所属した病院には必要な装置や器具が十分揃っていませんでした。

リハビリでどんな機能回復ができるのか、利用者本人もスタッフも十分には分からない状況でした。そこで、スタッフと一緒に丁寧に一人一人にあつたリハビリを計画し実行しました。必要な補助器具も一緒に手作りしました。その過程を記録し映像化し、音声をつけてSNSで流しました。苦労して習得したベトナム語がこの時役に立ちました。

一例をあげれば、身近にあるハンガー等で腕や指の動きを矯正する補助器具を作り、実際にそれを使ってスムーズに腕を動かす映像を流す。これは効果的でした。フォロワーが増え、多方面から反響がありました。他の病院から呼ばれて指導に行ったこともありました。何より嬉しかったのは利用者の笑顔です。歩けるようになった！野菜作りができるようになった！将来に希望が持てた！と、いう感謝の言葉が返ってきたことです。その時は、本当に嬉しく、作業療法士の仕事に役に

立ったと実感した瞬間でした。医療・福祉は国境を超えて人を助けることができる！これを確信しました。最後に三つお伝えしたいことがあります。一つは若い時に世界を見てほしいということ。二つ目はチャンネルを逃さないために常に準備をしておいてほしいこと。三つ目は僕がベトナムでいろんな方に親切にしてもらったように、皆さんも身近にいる外国人に親切にしてほしい。ということです。



装具を作成しているところ

（二〇一九年十月三日、本校講堂で行われた特別講演より）



社会に出る前の卒業前教育プログラム

リハビリセンター白鳥 チーフ 砂川 淳一

少子高齢化という日本を取り巻く社会的な課題は、今や待ったなしの状況です。このような社会情勢の中、介護サービスの需要は今後さらに増加すると見込まれています。少子化の波もあり介護を目指す学生が年々減少傾向にあるだけに、今後、介護のプロを育成していく任務は非常に重要な責務だと認識しています。

介護分野に人手が足りないことは今さらいうまでもありません。岐阜県では二〇二五年には三万五千人の介護職が必要で、そのためには新たに毎年千人の入職者が必要となっています。それ自体気の遠くなる数字ですが、ここでちょっと気になる数字ですが、ここで見たいと思います。介護の仕事に就いてもすぐにやめてしまう人が結構たくさんいるというデータです。介護職の年間の離職率は全国平均でおよそ十七%です。これは全産業平均より二%ほど高くなっています。内訳をみると入職後、三年以内の離職者が全体の七割を占めています。そのうちの六割が一年未満でやめています。入職後すぐにやめる人がとても多いということですね。サンビレッジ卒業生の中にも、残念ながらこれまでそういう人がいま

した。離職の理由のダントツ一位は「職場の人間関係」です。確かに卒業直後の若者は人間関係を処理する力が足りないところもあるでしょう。でもそれは力をつけられればよいだけの話です。本人にとっても施設にとってももったいない話ですね。

これを見て考えました。二年間で介護の知識も技術も習得し、やる気に満ちて卒業していく二年生がそうした状況に陥らない方法はないものかと。卒業したばかりのフレッシュな介護職がすぐに現場でスムーズに働いていけるような教育プログラムを立ち上げられないかと。そこで誕生したのが「卒業前教育」でした。サンビレッジの教員の皆さんと私のように介護現場で仕事をしている者たちが話し合いを重ねて考案し昨年から実施しています。

卒業間近の二年生が、実際に、施設の中で学生という立場でなく「職員」として朝から夕方まで九日間働くのです。例えばリフトがうまく使えない場合を想定しましょう。どのタイミングでどのような言葉遣いや態度でどの職員に使い方を尋ねれば良いのでしょうか？自分で考えて積極的に職員に関わることによって

しか問題は解決しません。社会経験の少ない現役生にとっては少しハードルが高いかもしれませんが、ここで苦労してその感覚を養いましょう。そうすれば実際の現場に出たとき慌てずに済むはずです。

私の役割は現場と学校の橋渡し役、調整役です。学校の教員と現場の責任者とが相談しながら、ひとり一人の学生の性格や特性に応じて、その学生が担当するフロアや利用者を選定しています。その学生の良さを引き出すのに最もよい場所どこか、またその学生はどこでストレスを感じているか、コミュニケーション能力がどう上昇したか。こうしたことを日々把握し、現場の責任者やサンビレッジの教員の皆さんと情報を共有しています。

私たちと一緒に長く働いてくれる介護職の仲間を育てるためにも、この卒業前教育をさらに充実させていきたいと思っています。



白鳥カフェにて

Topics

第十四回みえ福祉用具アイデアコンクールで三年目の快挙！



『第十四回みえ福祉用具アイデアコンクール二〇一九』において介護福祉学科二年生の高井夏海さんが、全国からの応募数二百三十点の中から優秀賞を受賞しました。

生活支援技術Eという授業の一環で、このコンテストに応募するようになって三年目の快挙です。

高井さんが作成したのは、ご使用者が、どれくらい水分を摂取できているのか一目でわかるメモリ付きコップ。二〇ml毎の数字は書かず、計量メモリそのものが柄に見えるように工夫し、障害者・健常者を問わず、誰もが使えるユニバーサルデザインとなっています。

現場での実習を経験し、ご利用者と介助者双方の視点に立ったからこそ気づき、今まで有りそうで無かった作品を生み出すことが出来たのではないのでしょうか。

今回のコンクールをきっかけに、ご利用者の自立や安心できる生活を常に意識しながら、現場で頑張っしてほしいと思います。

作業療法学科教員

河村 ひろ子

新入職員メッセージ

小児分野で働くSTの仲間が増えることを楽しみにしています。

河瀬 未来

（言語聴覚学科 教員）



岐阜県立希望が丘こども医療福祉センターにて、発達障害、構音障害、脳性麻痺などの分野を幅広く担当。2019年度より現職。

昨年より言語聴覚学科に教員として着任した河瀬と申します。本校を卒業後、昨年度まで、岐阜市の小児施設にて、言語聴覚士として、発達に問題があったり、上手く発音できないお子さんのリハビリを中心に行っておりました。

これまで多くのお子さんを担当させていただき、こんなにも多くの子どもたちが、言語聴覚士の訓練を必要としているのか、ということに驚きました。小児の臨床現場では、対象児が多く、リハビリが一月に一回程度しかできないことも少なくありません。そのため、言語聴覚士一人の力では、訓練を効果的に継続したり、訓練環境の調整をすることが困難でした。

現場では、多職種との幅広い連携が重要になります。医師・看護師・作業療法士・理学療法士といった医療スタッフはもちろんのこと、保育園や学校の先生方、ヘルパーさんなど、お子さんと日常生活面で関わる方々や保護者の方々との連携も不可欠になります。

もちろん職種や立場が異なれば専門性や考え方も違います。お互いの職種を尊重し、こまめにコミュニケーションをとりながら情報交換を行うことを心掛けていました。

多職種連携の中で、異なる職種が同じ目標に向かうことで、対象児へ、一貫した関わりを持つ事が出来るのです。言語聴覚士として、今、一番やるべき事は何か？複数の専門家がそれぞれに連携して、何が出来るのか？常に心掛けながら、お子さんの成長を見守ってきました。

入職して、小児分野に興味を持つ学生がとて多いことに驚いていますし、またとても嬉しく思っています。自身の経験を交えながら子どもと関わる仕事の魅力や必要性、多職種連携の重要性を理解できる言語聴覚士を育てたいと思います。

小児分野で働く言語聴覚士の仲間が増えることを楽しみにしています。

卒業生に聞きました

介護福祉学科



介護福祉学科2年生

きたいです。また、それぞれの利用者さんに合った介護ができる介護福祉士として頑張ります。

河村 穂乃香

私は、元々かなりの人見知りでしたが、学校のクラスメイト、施設の職員さんや利用者の方々と関わるうちに、人が苦手、怖いという気持ちが薄れ、話すことが楽しいと思えるようになりました。介護職は、話す力が求められると思うので、就職しても頑張りたいと思います。

川本 美緒

私は実習でコミュニケーションについてとても苦戦しました。話題に困ったとき、職員さんや利用者の方に助けていただき、お話しをする中で、自然と自分から話題を出すことができるようになりました。自信に変えることができました。

北澤 雅貴

授業、実習、国試とせわしく目まぐるしい二年間でした。楽しい思い出ばかりでなくつらく苦しい時期もありました。実習では、自分本位な考え方を相手に押し付けてしまうなど恥ずべき態度をしたこともありましたが、でも、あきらめずに自分の理想とする介護福祉士をイメージして頑張りました。人の気持ちに寄り添うことができるようになった気がします。

小坂井 葵

私は、この二年間で人と関わることの大切さを学び、対人援助に自信が持てるようになりました。介護業界では、人との関わりが基本で、話すことができなけ

入学してから自信が持てるようになったと思えることは？

れば仕事が成り立ちません。なので苦手なことを克服すべく実習や授業を通じて、さらには学校の仲間と話すことで人見知りを克服しました。将来、利用者さんに寄り添って仕事をしたいです。

繁田 美保

入学時は三十歳も年下のクラスメイトが何人もいて、年下のクラスメイトと過ごすことができるのかと正直不安でした。でも、皆、学校行事などの話し合いの場で、積極的に意見を述べてくれて、思ったほど年齢差を感じることはありませんでした。チームワークが大事と言われる介護職ですが、若いクラスメイトとの出会いによって培われたように思います。

島 芙美香

元々人見知りの私は、入学時は、クラスになじめるのか、実習で職員の方と上手にコミュニケーションとれるか不安でした。この二年間で多くの方と接し、実習を重ねてきたおかげで初対面の方にも前ほど緊張することなくコミュニケーションができるようになりました。この成長は自分の中で宝となりました。

高井 夏海

苦手な実技や教科の勉強の時、クラスメイトに自分から声をかけ教えてもらったり、利用者の方に積極的に声をかけ安心してもらえる環境を作ったりすることができるようになりました。また、話しかける場所や座る位置、言葉づかいやスピードなども利用者に合わせることで自信が持てるようになりました。

西脇 三葉

この学校に入学して成長したと思えることは、周りをよく見て行動するようになった所です。幼い頃は、周囲に迷惑をかけてばかりでしたが、この学校に入学して、今、自分がやるべきことと自分が行わなければならないことを見つけ、すぐ行動することができるようになったので、今後も周りを意識して行動していきたいです。

見田 佑斗

この学校に入学して自信を持てたことは、排泄介助の技術です。最初の頃、清拭やオムツの当て方もわかりませんでした。現場実習にて、適切な動作を、何度も回数を重ねてきた結果、対応方法の引き出しが増えたと感じられ自信に繋がりました。

美濃輪 あみ

この二年間で自信が持てるようになったことは、コミュニケーションです。入学した頃は、現場で自分から利用者の方へ上手に話しかけることができなかった、逆に利用者さんから話して頂いてばかりでした。でも、ふれあいタイムや実習のおかげでコミュニケーションに自信が持てるようになりました。



作業療法学科



作業療法学科3年生

内山 愛美

国家試験の勉強を通して嫌な自分を見つめ直しました。自分自身と向き合う機会になり、改めて勉強の仕方や生活面に目を向けることができました。

上南木 実久

この三年間、勉強方法を学んできましたが、それまでの勉強方法では合格が難しく、心が折れてしまうこともありました。家族の支え、クラスの仲間や先生方のサポートにより最後まで頑張ることができました。

鹿間 光里

自分の生活リズムや勉強スタイルを見直す貴重な機会になったのではないかと感じています。危機感が希薄だった私は、暗記重視の勉強法で、何か調べるのもスマホで調べるといったやり方でした。それでは本当の力はつかないと、先生方からアドバイスを受け、辞書で調べ、教科書を読み込む勉強スタイルに変え、最後は、落ち着いて取り組みました。

国家試験勉強を通してどんな気づきや学びがありましたか？

清水 亜美

国家試験では、自分自身の課題に何度もぶつかりました。自分の意思が強くて、人の意見を素直に受け入れることができなかったです。苦しい時もありましたが、クラスメイトと支え合い乗り越えることができました。みんなありがとう。

諏訪 杏香

嫌なことを後回しにしたり、目を背けたりといった自分の弱い部分と向き合うことができました。また、考え方の癖がわかり自分自身の特性を改めて知る機会になりました。

菱田 さら

自分の得意な勉強ばかりし、人の意見も壁を作って聞きませんでした。でも、そこが自分の課題であることが分かり、そういったことに向き合う良い機会になりました。クラスの子がいたから最後まで頑張れました。ありがとう。

森 比奈子

勉強を始めようと心が焦っても、体は言うことが聞いてくれませんでした。本能的に勉強しました。

国試対策開始時、勉強する気持ちはあったのですが、真剣みもなく落ち着いてできませんでした。卒試が終わり、国試までは遊ばないと決め、どうせ合格するのなら余裕をもって受かりたいと思ってやってきました。姉からは落ちるよと、いわれていましたが、最後は大丈夫と認めてくれるようになりました。最後は勉強も楽しくなりました。

言語聴覚学科



言語聴覚学科3年生

岩佐 桃伽

勉強と趣味の両立です。楽しみをただ我慢するのではなく、この日は遊ぶから勉強しよう。と、前もって計画を立て、ご褒美の日を設けモチベーションを上げて三年間を過ごすことができました。

四井 祐里奈

私は三年間、健康に気を付けて過ごすことができました。一年時は休んでしまいう時がありましたが、二年時、三年時は大きな病気はなく、無遅刻、無欠席を継続することができました。健康に気を付けることで、勉強に費やすこともでき無事卒業につながることができました。

高田 芳

私には小さな子供がおり育児と勉強の両立を頑張りました。只々がむしやらしなくてはならないことを必死でこなし三年間でした。ハードな毎日で得たものを次のステップに活かしたいと思います。

三年間で一番頑張ったことは何ですか？

豊吉 美月

アルバイトとの両立を頑張りました。試験期間も関係なく、週四日が入っていましたが、勉強についていくため必死になって、どんなに疲れていても夜中までほぼ毎日勉強をしていました。その努力が実り無事、卒業できるので、辛かったけど、あの時、頑張つてよかったと思います。

俵 友佳里

勉強と家事の両立です。大変だったのは、どんなに疲れていても家事をしなければならぬこと。今、一人暮らしをしています。家に帰れば部屋が綺麗に片づけられ、温かい食事とお風呂が待っているという実家暮らしがどれだけ幸せだったか実感しています。離れて初めて母の偉大さを知りました。



\今年も学生がイキイキ！/
サンビ通信
 授業とイベントのスナップ！

将来は、地元の飛騨市で介護福祉士として働きたい



私の地元である飛騨市が、社会福祉法人新生会と提携し、新しく「若手介護・福祉人材育成支援事業」を行うことになり、その修学資金を頂いて二年間学んできました。

学校生活の学びの中で印象に残っていることの一つは「相手の立場になって考える力」です。この力の必要性を痛感したのは実習での経験です。課題を遂行しなければならないという焦りから、自分の思いだけで行動してしまい、利用者に負担を感じさせてしまいました。

そんな時、利用者の立場になって考え、相手に合わせて行動を変えてみると利用者の笑顔が増えました。相手の立場になることがより良い信頼関係を築くことにも繋がるのだと実感できました。

もう一つが「多職種連携」です。本校の三学科の学生と大垣市医師会看護専門学校の学生が合同授業で学ぶ機会があり、事例をもとに模擬カンファレンスも行いました。今まで知らなかった職種についての新しい発見があり、各職種が協力することでより良い支援が提供できると実感し、多職種連携の重要性を改めて学ぶことができました。

これら多くの学びを活かし、介護福祉士としての実力をつけ、飛騨市の介護を担う一員として活躍できるようになりたいと思います。

介護福祉学科二年 見田 佑斗

2020年
 サンビレッジ国際医療福祉専門学校
 自分の未来を考える
**2020年度
 オープン
 キャンパス** 参加費 無料
 午前開催：10:00～12:00
 午後開催：13:15～15:15

【開催日程】

※3月21日（土）	4月19日（日）	5月17日（土）
※6月13日（土）	7月5日（日）	7月19日（日）
8月10日（日）	8月17日（月・祝）	12月6日（日）
2月7日（日）	3月20日（日）	※午後開催

【会場】

サンビレッジ国際医療福祉専門学校 北館

＜お問い合わせ・お申し込み＞

■ホームページ（<http://sunvi-college.jp/>）から
 OpenCampus申し込みフォームに必要事項を記入下さい。



■LINEから

オープンキャンパス希望と
 明記の上、連絡先をご記入下さい。

詳しくはホームページまたは、
 下記QRコードをご覧ください

令和2年度行事予定表（上半期）

4月7日 入学式
 4月8日～ 新入生オリエンテーション
 5月22日 サンビ祭
 7月下旬 夏季休暇



Facebook



Instagram



奨励奨学金制度適用者（卒業生）

○皆 勤 【作業療法学科】清水 亜美
 【言語聴覚学科】四井 祐里奈

保護者各位

昨年11月9日、第一回保護者懇談会を開催しました。当日はお忙しい中、多くの保護者の皆様にご出席頂き感謝申し上げます。

懇談会では、日頃の学習の様子や内容はもちろん、在校中に学生がどのように実践力を身につけていくか、どの時期にサポートしていただきたいかなど、様々なことをお伝えさせていただきました。また、家庭からみた学生の姿やご意見や提案もいただきました。今後の学校教育に反映していきます。

次年度も保護者懇談会を継続していきたいと思っています。

十分な時間はとれませんでしたでしたが、充実した懇談会ができました。ありがとうございました。

＜編集後記＞

日本社会は、少子・高齢化により働く世代の人口は減り続け、外国人労働者の力を借りないと立ち行かなくなるのは明白です。彼らを一緒に働く仲間として受け入れ、その国の風俗や宗教にふれて、文化交流をはかりながら理解することで、互いの絆が深まるのではないのでしょうか？

サンビ校も、この春から外国人が入学します。その効果を大いに期待したいものです。

言語聴覚学科 森 晃雄